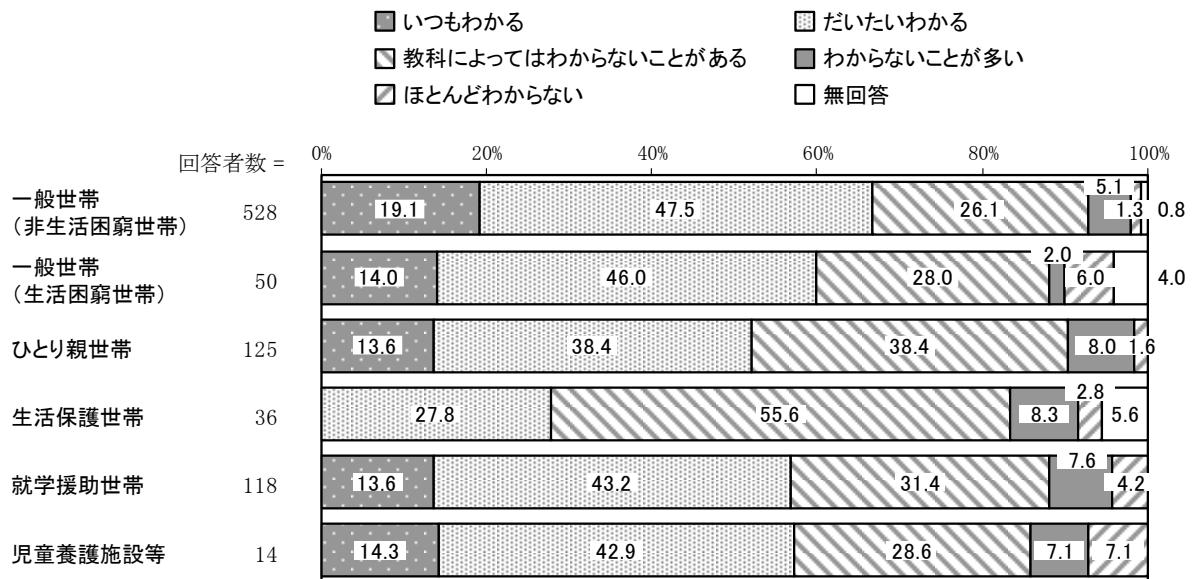


## 令和2年度千葉市子どもの生活状況に関する実態調査（抜粋）

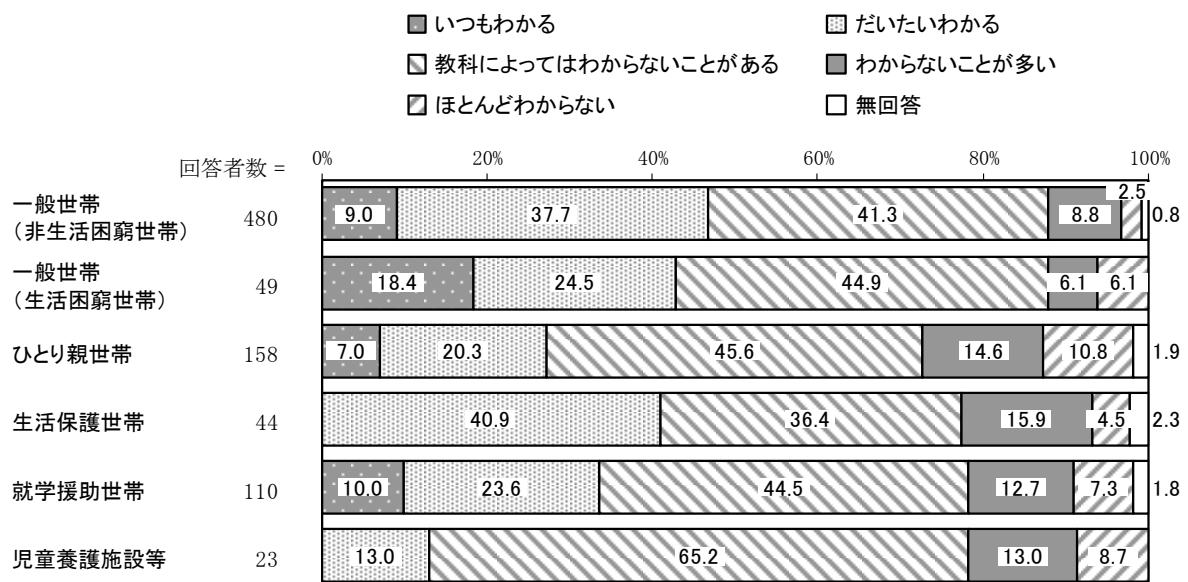
### 1 教育の視点から

#### （1）子ども票 授業の理解度

<小学生>



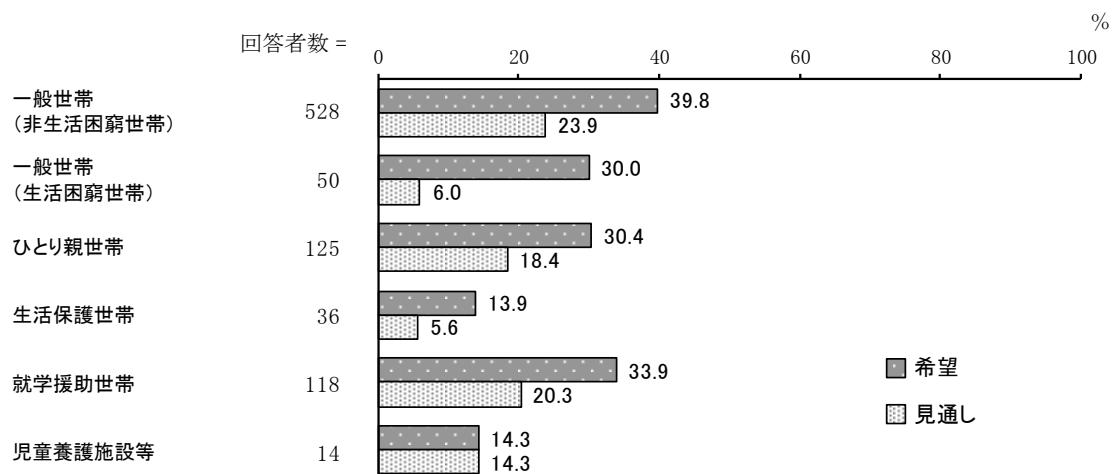
<中学生>



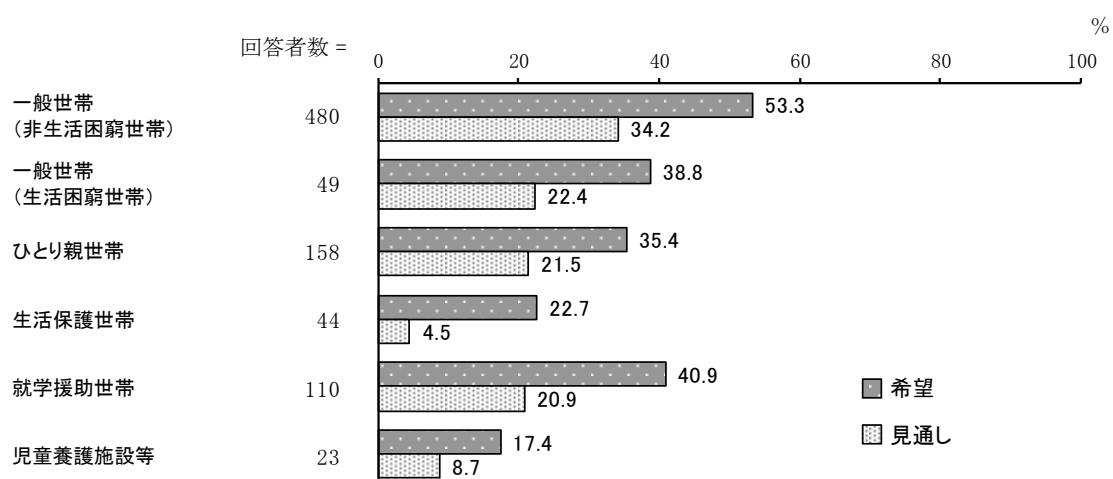
授業の理解度について、小学生・中学生とともに、「いつもわかる」と「だいたいわかる」を合わせた割合は、非生活困窮世帯に対し、その他の世帯では低く、小学生では生活保護世帯、中学生では児童養護施設等が特に低かった。

(2) 子ども票 進学の見通しと希望の比較（「大学またはそれ以上」と回答した割合

<小学生>



<中学生>

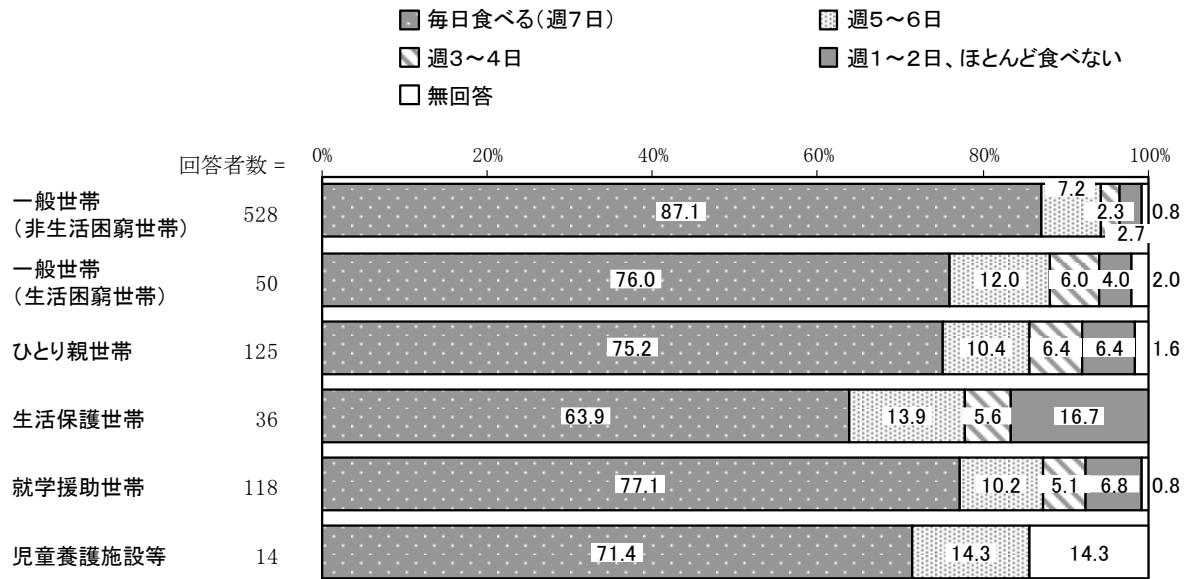


進学の見通しと希望について、「大学またはそれ以上」と回答した割合の比較では、世帯類型にかかわらず希望よりも見通しが低くなっています。特に、小学生では、一般世帯（生活困窮世帯）で、中学生では、生活保護世帯で、希望より見通しが低くなる割合が高かった。

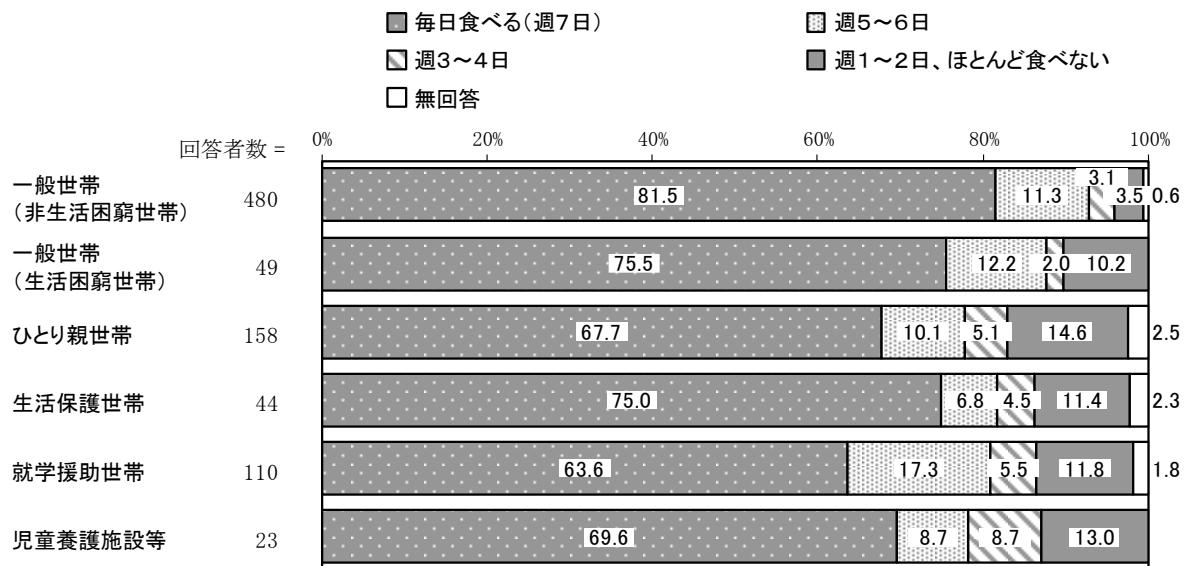
## 2 生活の視点から

### (1) 子ども票 食事の頻度（朝食）

<小学生>



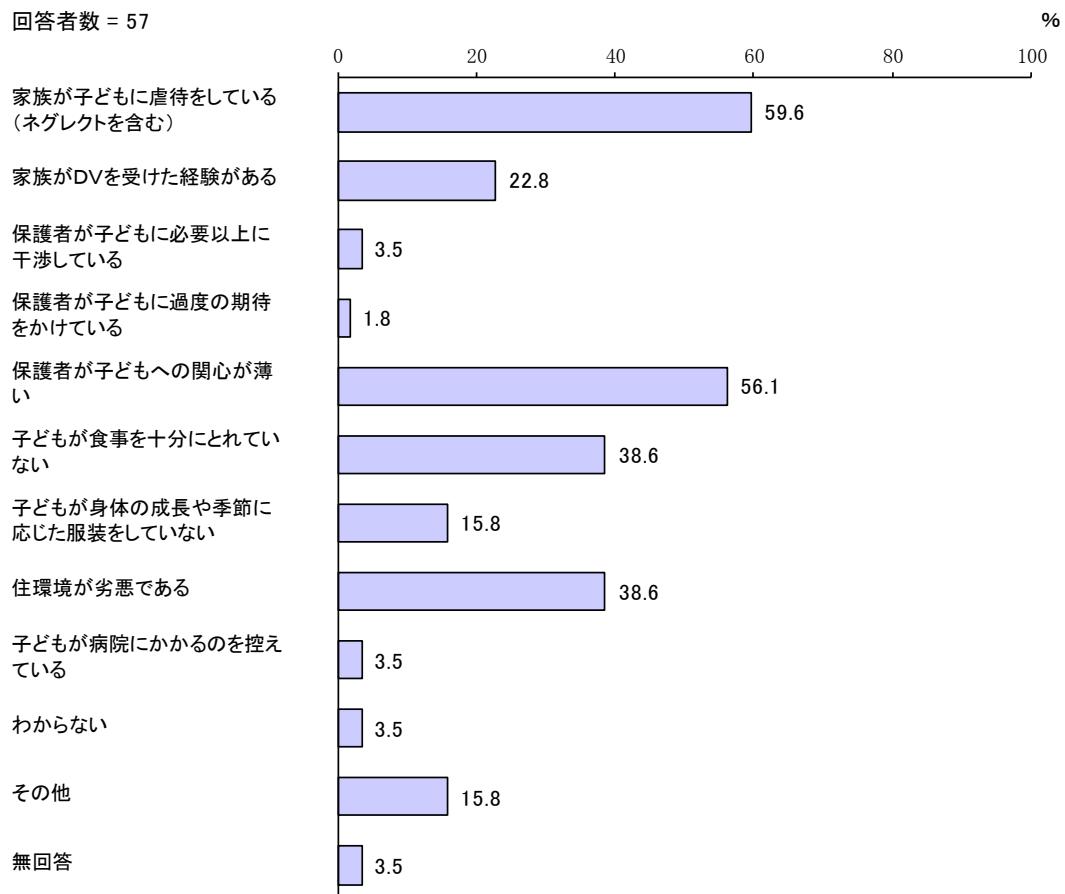
<中学生>



食事（朝食）の頻度について、小学生では『生活保護世帯』、中学生では『ひとり親世帯』『就学援助世帯』で他に比べ、「毎日食べる（週7日）」の割合が低かった。

## (2) 支援機関等(※) 貧困家庭の困難な状況

※社会福祉協議会各区事務所、保育所、子どもルーム、生活・自立仕事相談センター、子育て支援施設、母子生活支援施設、児童家庭支援センター、子どもナビゲーター、子ども食堂、フードバンク、学習支援団体、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、母子父子自立支援員、家庭相談員、ひとり親支援団体 等 95 団体

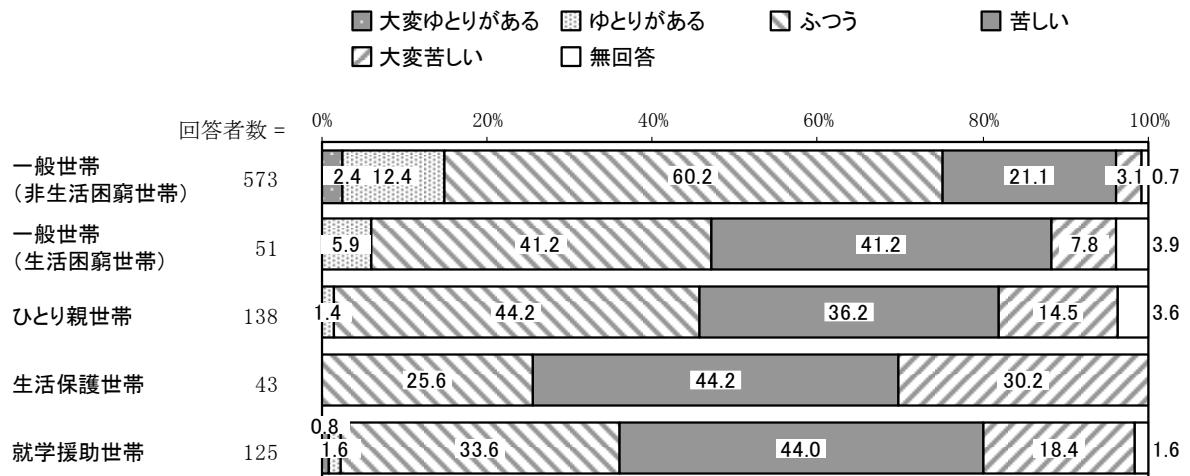


「家族が子どもに虐待をしている(ネグレクトを含む)」の割合が59.6%と最も高く、次いで「保護者が子どもへの関心が薄い」の割合が56.1%、「子どもが食事を十分にとれていない」、「住環境が劣悪である」の割合が38.6%となった。

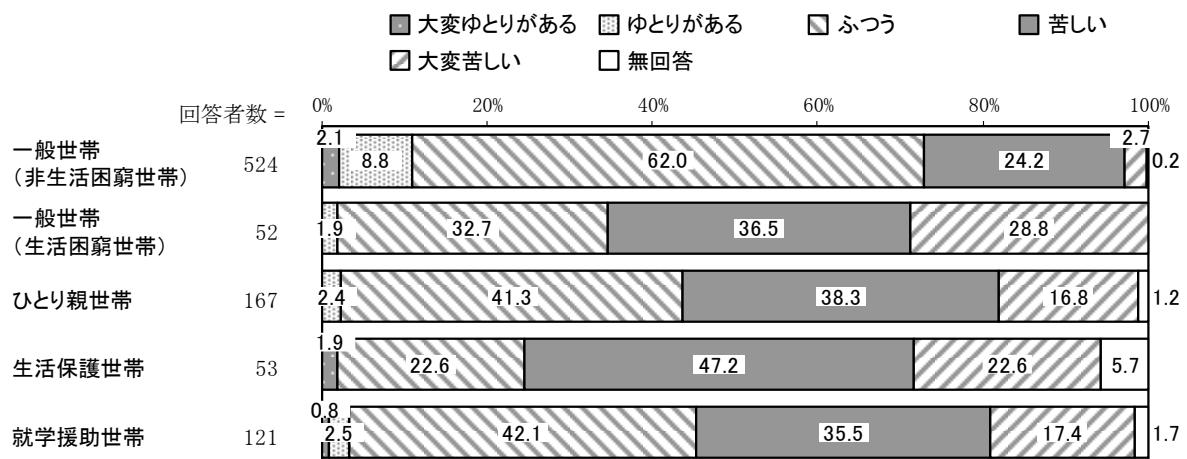
### 3 保護者の就労の視点から

#### (1) 保護者票 暮らし向き（主観）

<小学生>



<中学生>



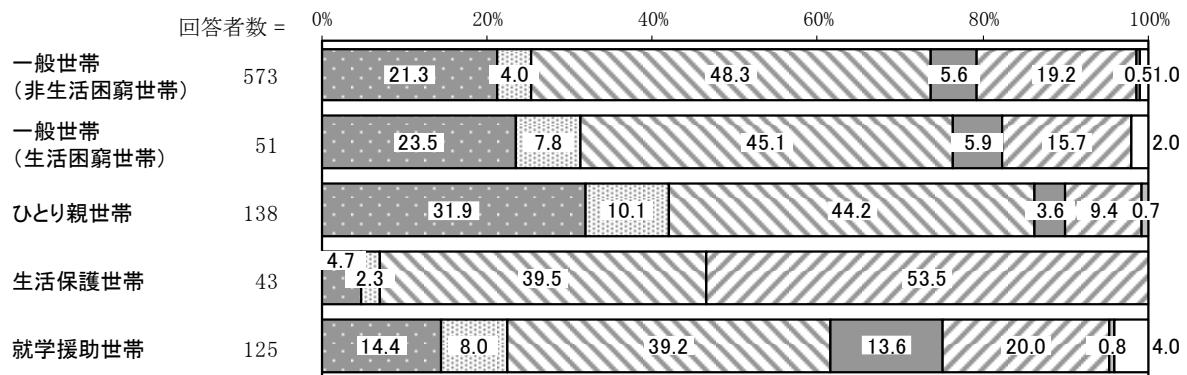
暮らし向き（主観）について、小学生保護者では、他に比べ、生活保護世帯で「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が高く、中学生では、加えて一般世帯（生活困窮世帯）でも「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が高かった。

## (2) 保護者票 親の雇用形態

### A 母親

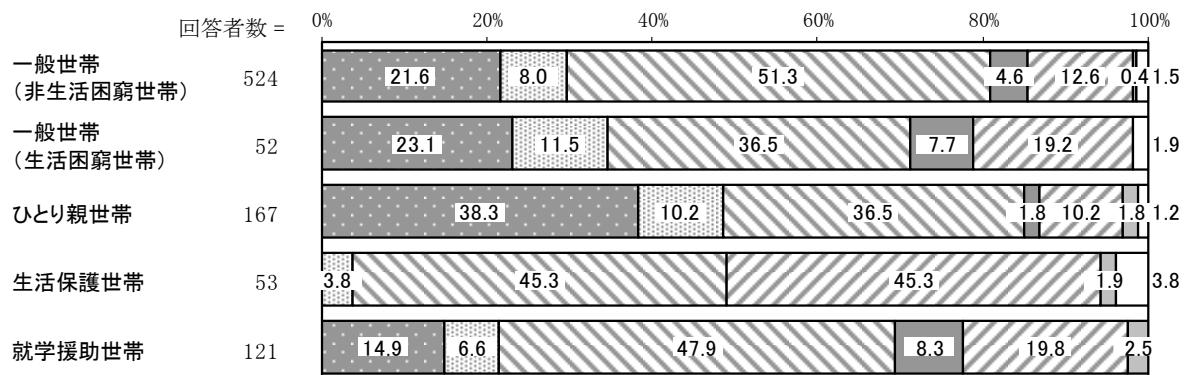
<小学生>

- 正社員・正規職員・会社役員
- 嘱託・契約社員・派遣職員
- パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員
- 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)
- 働いていない(専業主婦/ 主夫)
- いない、わからない
- 無回答



<中学生>

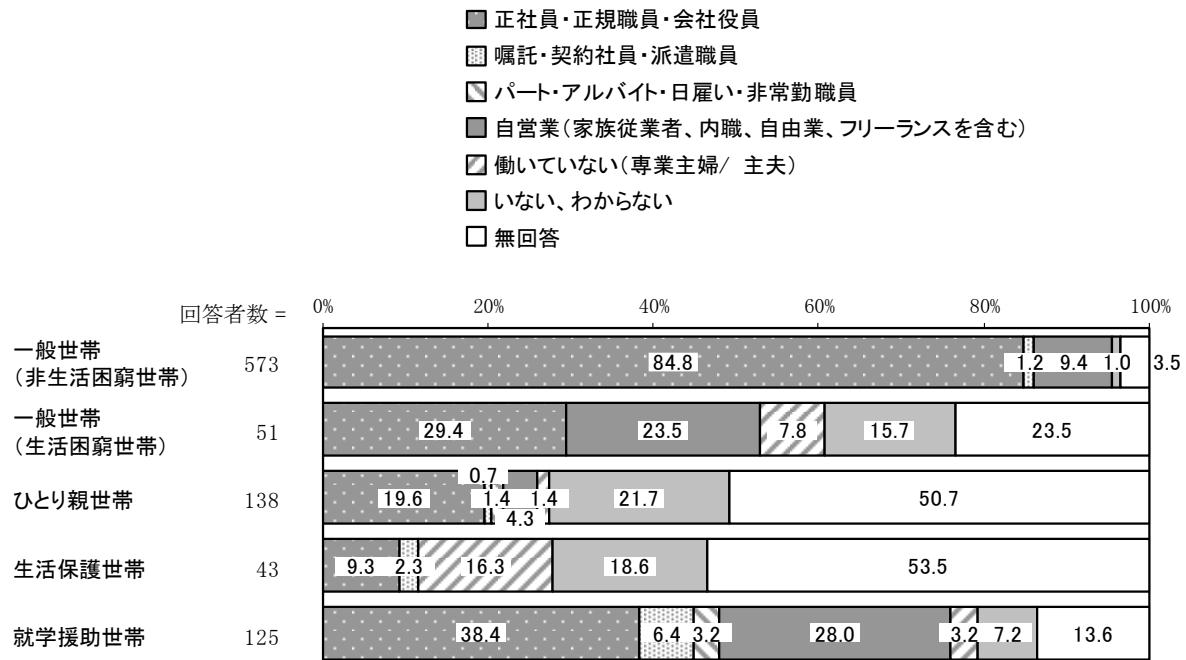
- 正社員・正規職員・会社役員
- 嘱託・契約社員・派遣職員
- パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員
- 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)
- 働いていない(専業主婦/ 主夫)
- いない、わからない
- 無回答



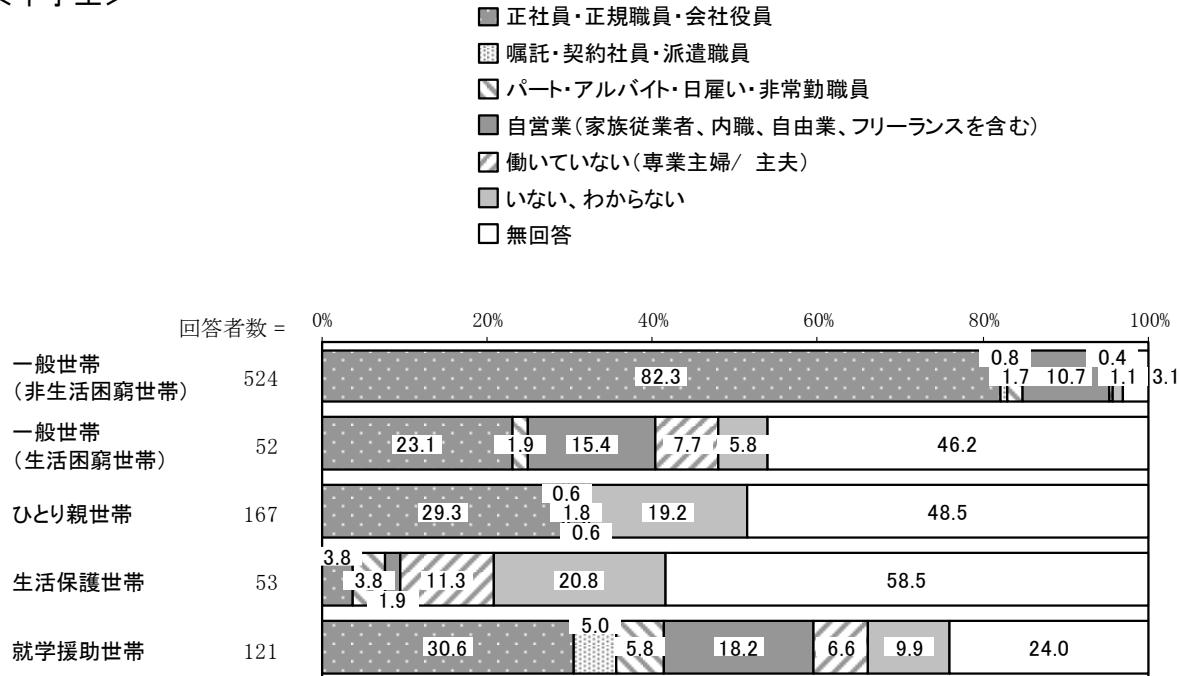
母親の雇用形態について、小学生保護者、中学生保護者とともに、他に比べ、生活保護世帯で「働いていない」の割合が高かった。

## B 父親

<小学生>



<中学生>

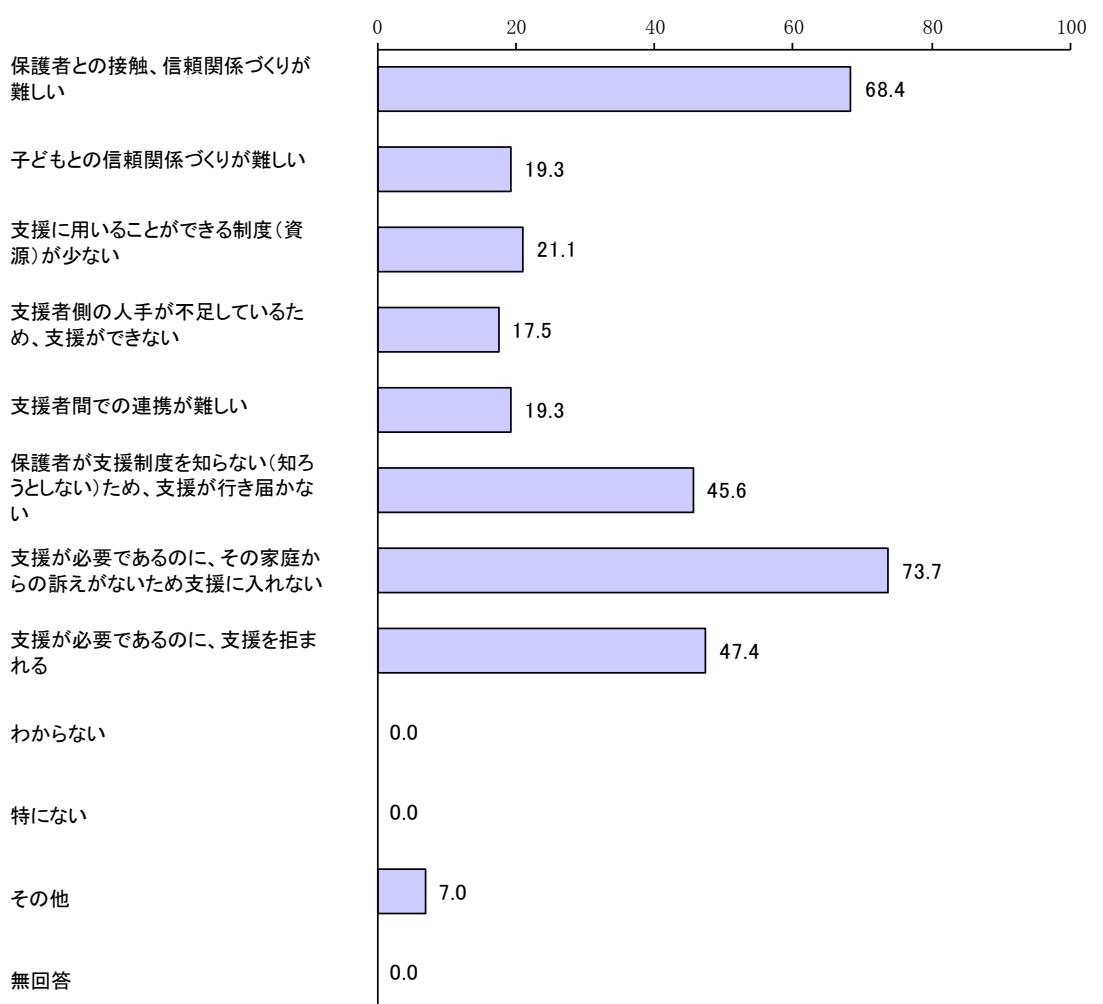


父親の雇用形態について、小学生保護者、中学生保護者とともに、他に比べ、一般世帯（非生活困窮世帯）で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高く、その他の世帯と大きな開きがあった。

#### 4 支援体制の視点から

##### (1) 支援機関等 支援にあたって困難だと感じる点

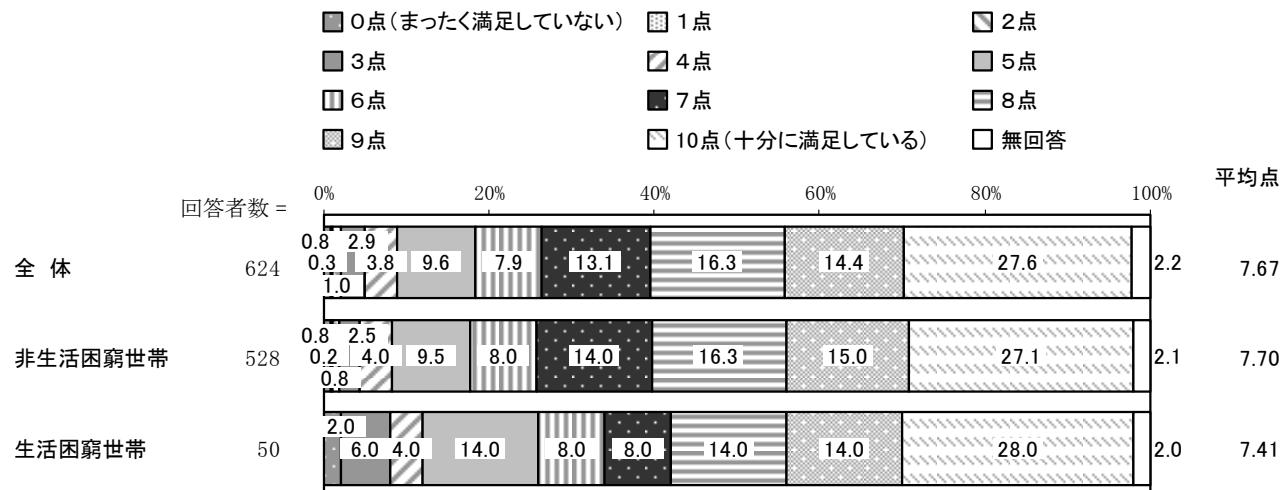
回答者数 = 57



「支援が必要であるのに、その家庭からの訴えがないため支援に入れない」の割合が 73.7% と最も高く、次いで「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」の割合が 68.4%、「支援が必要であるのに、支援を拒まれる」の割合が 47.4% となった。

**参考 子ども票 生活における満足感**

<小学生>



<中学生>

